

ホームページでリアルタイムの運用状況を確認できます。

江戸川区の上空を飛行する新飛行経路は、羽田空港が北風運用の場合の「7時～11時30分」と「15時～19時のうち3時間程度」に限って運用されます(北風運用は年間約6割程度運用されています*)。 ※2021年度実績

「羽田空港飛行コースホームページ」

<https://www.ntrack.mlit.go.jp/NtrackTop/show>

航空機の航跡・飛行高度・機種と各騒音測定局における測定値についても、アクセス日の前日から1ヶ月前までの記録をご確認いただけます。



Column 航空機の運航について

Q. 羽田空港を離着陸する航空機の日々の運用はどのように決まっているのですか？

A. 空港周辺の風向きだけでなく、首都圏全体の気象状況をもとに、航空機が安全に離着陸できるように決定されています。

航空機は、基本的に安全に離着陸するため風が吹く方向に向かって飛行します。羽田空港の場合、その時々々の気象状況をはじめ様々な要因を考慮し、南風運用と北風運用の2種類のいずれかを選択して運用しています。

引き続き、騒音対策・落下物対策に取り組むとともに、地域の皆さまへ丁寧でわかりやすい情報提供を行ってまいります。

Tel:0570-001-596

ナビダイヤルに接続できない方は 050-3655-5960
受付時間7:00～20:00[土・日・祝含む]

最新の運用報告は、ホームページからご確認ください。

羽田空港のこれから 検索
<https://www.mlit.go.jp/koku/haneda/>



そのほか『羽田空港のこれから』ご意見カードを区役所等にご用意し、皆さまからのご意見を承っております。

江戸川区の皆さまへ

羽田空港のこれから

2022年秋号

日頃より、羽田空港の機能強化に伴う、新飛行経路の運用にご協力いただきありがとうございます。

羽田空港の新飛行経路は、首都圏の国際競争力強化等の観点から発着容量拡大のため、2020年3月29日より運用を開始いたしました。

このチラシでは、羽田空港の新飛行経路の運用に関する様々な情報をお届けします。



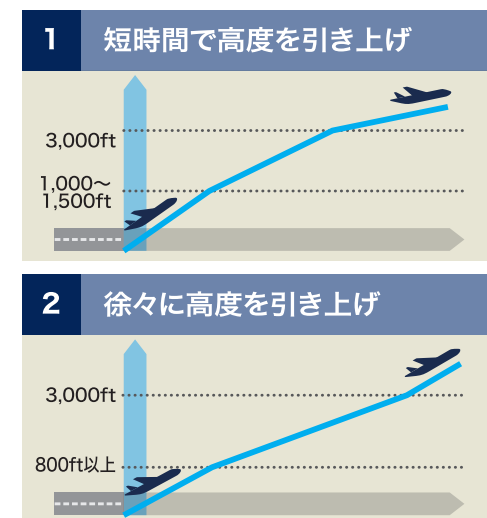
お知らせ

第5回「羽田新経路の固定化回避に係る技術的方策検討会」が開催され、出発経路方策の検証結果等が報告されました。

「羽田新経路の固定化回避に係る技術的方策検討会」において、新飛行経路の固定化を回避するための技術的方策を検討しています。

第5回固定化回避検討会 (2022年8月3日)

出発経路下地域における騒音影響軽減の観点から、最適な出発方式を検討するため、シミュレータによる検証を行いました。その結果、荒川河口以北においては、現在、北風時荒川ルートに導入されている2方式(1・2)がいずれも最適な出発方式であることが確認されました。



シミュレータによる検証(イメージ)

新飛行経路の固定化回避に向け選定された2つの飛行方式の羽田空港到着経路への導入のため、飛行方式の具体的な安全性の評価や基準の策定などの取組を進めています。

導入に向けて必要な主な取組

- 安全性の評価
- 基準*の策定
※飛行経路設定に必要な基準、運用ルールなど
- 騒音軽減効果の検証
- 飛行方式に対応する機材導入や乗員の確保促進

これまでに実施した取組

前回の検討会で選定された飛行方式により、羽田空港において1機の航空機が飛行することが技術的に可能であるか等を確認するため、様々な条件*の下でシミュレーション検証を実施しました。
※気象条件・飛行する航空機の種類など

検証の結果、羽田空港において、1機の航空機の飛行が様々な条件下で可能であることを確認しました。



シミュレータによる検証(イメージ)

お住まいの地域における騒音測定局の測定結果、航空機の航跡等の最新の情報につきましては国交省HP「羽田空港のこれから」で公表しております。

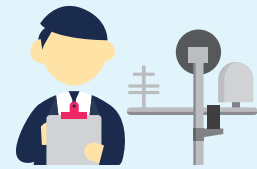
ぜひ、ご覧ください。

新飛行経路の運用に当たっては、 様々な騒音・落下物対策に取り組んでおります。

新飛行経路の運用に関して、 様々な情報提供を行っております。

騒音対策

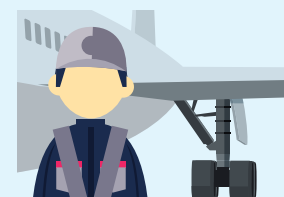
測定局にて常時実施している騒音測定の結果は、「羽田空港飛行コースホームページ」や「羽田空港のこれから」にてご確認ください。



- 新飛行経路の運用時間を限定
- 着陸時の降下角の引き上げ
- 着陸料の料金体系に騒音の要素を追加
- 西向きに離陸する航空機の制限
- 着陸時の高度引き上げ
- 条件を満たす施設(病院、小規模保育施設など)への防音工事の助成
- 着陸前の飛行高度を上げるため着陸地点を移設
- 騒音測定局の設置と結果の公開

落下物対策

新飛行経路において確認された落下物は0件※1です。部品欠落※2については、航空会社等と協力して原因分析・再発防止に取り組んでいます。



- 落下物防止対策の義務化
- 落下物の原因分析を強化
- 駐機中の機体を抜くうちでチェック
- 落下物の原因者である航空会社への処分等の実施
- 全国の空港事務所等を通じ、落下物に関する情報を収集
- 落下物による被害者に対する補償等を充実
- 航空会社の部品欠落の報告制度を充実

※1 2022年7月末時点 ※2 到着後の点検において航空機の部品がなくなっていることが確認されたもの

世界に類を見ない我が国独自の基準を策定し、本邦航空会社・日本に乗り入れる外国航空会社に対し、部品や氷塊の落下を防止するための対策を義務付けています。

〈部品欠落防止対策の例〉ボーイング787型機の給水扉の改良

部品欠落発生	再発防止徹底
機体の胴体下部の給水口扉の欠落を発見 給水口扉の位置 対策前の給水口扉 蝶つがい(2点で固定) 留め金(計3個)	強化型の給水口扉への改修(給水口扉・蝶つがい・留め金の改良)を義務付け 対策後の給水口扉 蝶つがいを改良(一辺全体を固定) 給水口扉を改良(材質変更・補強材追加) 留め金追加(計5個)

〈氷塊落下防止対策の例〉ドレイン・バルブの清掃

未然防止徹底
航空機内に溜まった液体などを排出するための抜き穴(ドレイン)と弁(バルブ)が胴体の下に設けられている ドレイン・バルブ バルブがゴミ詰まり等により正常に作動しないと飛行中に排水が凍結することがあるため、定期的なドレイン・バルブの清掃を義務付け

航空機からの落下物と思われるものを発見された場合は、右記の窓口にお問い合わせください。

「羽田空港のこれから」電話窓口 **Tel:0570-001-596**
ナビダイヤルに接続できない方は **050-3655-5960**
受付時間7:00~20:00[土・日・祝含む]

羽田空港のこれから

<https://www.mlit.go.jp/koku/haneda/>



各騒音測定局の騒音測定結果

騒音測定結果の速報版については、毎月公表しています。

●江戸川区区内における2021年度年間値の騒音測定結果

測定局	機体サイズ	2021年4月~2022年3月の実測値の平均$\langle \text{dB} \rangle$	推計平均値$\langle \text{dB} \rangle$
江戸川区立第五葛西小学校$\langle \text{C} \rangle$離陸	大型機	68.6	77~68
	中型機	64.4	76~61
	小型機	65.3	74~65

●新飛行経路と1時間当たりの運航予定便数



□:実測値の平均が推計平均値と同等

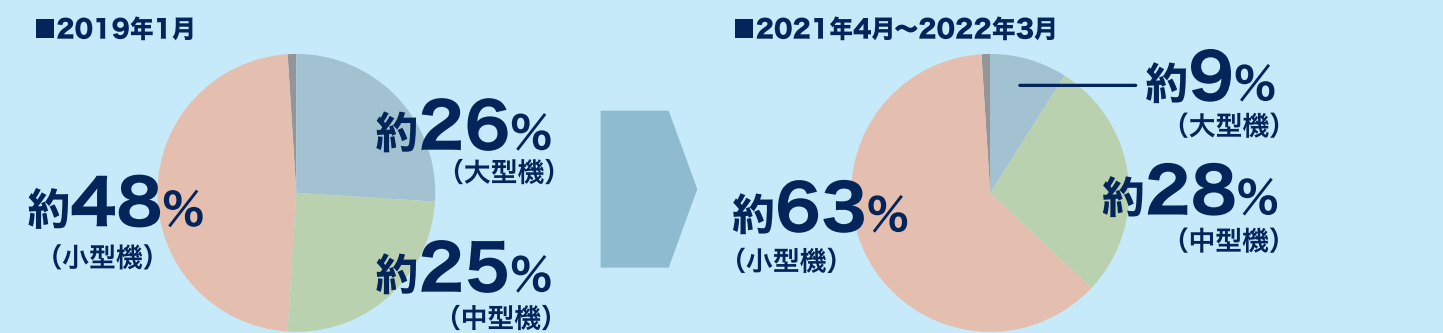
※推計平均値とは、事前のシミュレーションにより推計した騒音の平均であり住民説明会などでお示していた値。

騒音対策

全体の騒音分析※

就航機材割合※

大手国内航空会社による、騒音の比較的大きな大型機(B777)の退役などにより、騒音影響が比較的小さい中型機・小型機の就航割合が増えています。



■:大型機(B777-200など) ■:中型機(B767-300など) ■:小型機(B737-800など) ■:その他

落下物・安全対策

部品欠落件数及び欠落部品内容

落下物防止対策基準の拡充(拡充する場合)※

駐機中の機体チェック件数・ランプインスペクション(外国航空機への立入検査)実施状況※

運用実績

新飛行経路の運用実績・運航便数

北風・南風の運用割合

航跡図

ゴーアラウンド(着陸のやり直し)発生状況※

その他

新飛行経路に関する問い合わせ状況

※項目は概ね半年ごとに公表しています。